

第1学年 人権教育関連学習の構想

1 単元名 「わかる つながる きみがいるから」

2 ねらい

- ・ 障害のある人を支えている人の話を聞いたり，障害のある人と交流したりすることを通して，障害や障害者問題について正しく理解し，自分なりの課題意識をもって学習を進めることができる。
- ・ 車いす体験や点字・手話などの体験の中から，障害のある人が住みよい町はだれにとっても住みよい町であることに気付くとともに，自分たちができることを考え，主体的にかかわることができるようにする。
- ・ 交流体験活動などを通して障害のある人について考える中で，一人ひとりの違いを認め，一人ひとりの存在を尊重する態度を養う。

3 関連構想図

日常活動	教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間	生徒の意識
<p>【朝・帰りの会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちの良さを伝える。 ・ ニュースなどから障害に関する話題を投げかけ，考えさせる。 	<p>(車いす体験活動)</p> <p>全員が交代で障害のある人と介助者役になり学区内を車いすで通行する体験を通して，普段，何でもないと思っていることが，車いす使用者にとって障害になるということに気付き，障害のある人の視点で自分たちの周りの環境について関心をもつことができるようにする。</p> <p>総合的な学習の時間</p> <p>「わかる つながる きみがいるから」 障害について考えよう。</p> <p>障害の種類や程度，概念等について調べたり，考えた りする中で，障害のある人と，周りの環境や人とのか わりが重要であることに気付くことができる。</p> <p>障害のある人とかかわっている人に学ぼう。</p> <p>障害のある人の自由な行動を支援する道具の製作や施 設の運営にかかわっている人たちの話から，障害のある 人の「同じように移動したり身体を動かしたい」という 思いを知り，道具の改良や施設の整備により，障害を感 じなくてすむようになることを理解することができる。</p> <p>GT：福祉車両製造販売業者 障害者体育センター館長 車いすバスケサークル部員</p>	<p>路面のわずかな凹 凸や傾きがあるだけ でも，車いすを動か すのは大変だ。</p> <p>障害にはいろいろ な種類があるな。 障害は，その人を 取り巻く環境との関 係が大きそうだ。</p> <p>障害のある人も私 たちと同じ感覚なん だ。特別なわけでは ないんだ。 かかわっている人 は，当たり前で感じ て接しているんだな。</p>

各活動での感想や
思いを書いたワーク
シートを、廊下の各
自のファイルに入れ
て、友達の思いや考
え方にふれることが
できるようにする。

障害のある人（視覚障害）を支える働きを体験しよ
う。（点字）

点字作成体験を通して、点字の仕組みを理解したり、
点字の必要性を感じたりすることができる。

GT：岡山大学点訳サークル「きつつき」部員

障害のある人（聴覚障害）を支える働きを体験しよ
う。（手話）

手話を教えてもらったり、聴覚障害のある方と手話を
使って歌を歌ったりすることを通して、新しいコミュニ
ケーションの方法を獲得し、覚えたことが役立ち、ふれ
合うことを楽しいと感じることができる。

GT：岡山県聴覚障害者福祉協会

障害のある人（肢体不自由）と交流しよう。（車い
すバスケットボール）

車いすバスケットを通して、交流を楽しむとともに、楽し
みながら車いすバスケットをすることが、身体の機能を
維持していく助けになっていることに気付くことができ
る。

GT：車いすバスケットチームメンバー

体験・交流活動を振り返ろう。

これまでの体験・交流活動を振り返り、活動にかかわ
った人々についての理解を深めたり、感謝の気持ちをま
とめたりする中で、障害や障害者という言葉の意味につ
いてとらえ直すことができる。

ノーマライゼーションについて考えよう。

障害のある人と障害のない人という考え方ではなく、
同じ人として、同じ地域社会に暮らしていくためにどう
することが必要なのか考えることができる。

学級活動「バリアとは何だろう」

心のバリアについて考えることを通して、一人ひとり
の違いを理解し、互いに尊重し共に生活しようとする気
持ちや態度を養い、学級生活をよりよくしていこうとい
う意識をもつことができる。

難しいと思っていた
けれど点字や手話
をしてみると結構楽
しいな。

障害のある方と通
じ合えると嬉しい
な。

ボランティアとし
て参加してみたいな。

車いすをコントロ
ールしながらバスケ
をするのは、体力が
いるな。思った以上
にハードなスポーツ
だな。

障害は、身の回り
の環境の中や人々の
心の中にあるんだな。

環境を整えること
も必要だけど、まず
相手との違いを受け
入れることが大切だ
な。

友達にも様々な違
いがあるな。互いを
尊重していくことが
大事だな。

4 第1学年 学級活動指導案

題材名	バリアとは何だろう	
めあて	一人ひとりの違いを理解し，互いに尊重し共に生活しようとする気持ちや態度を養い，学級生活をよりよくしていこうという意識をもつことができる。	
学 習 活 動	教 師 の 支 援	
<p>1 これまでの学習を振り返り，バリア（障壁）について考える。</p> <p>2 障害のある人への理解を通して，心のバリアフリーについてグループで考える。</p> <p>3 自分たちの学級生活について，大切にしたいことを考える。</p> <p>4 学習を通して気付いたことや感じたことをワークシートに記入して発表する。</p>	<p>バリアをなくし，より良く生きるために必要なことがらをワークシートに記入させ，バリア（障壁）は，段差など物理的なものばかりではないことを確認する。</p> <p>これまでの交流や障害のある人のために活動している人の話を思い起こさせ，心のありよう（心のバリアフリー）が大切であることを示唆する。</p> <p>障害のある人に関して作成した資料「日本がもし100人の村だったら」を用いて，身近な問題として考えることができるようにする。</p> <p>違いを受け入れ，互いに支え合うことが大切であるという思いを共有できるように助言する。</p> <p>事前アンケートをもとに作成した資料「自分たちのクラスがもし100人の村だったら」を用いて，自分と友達との間に様々な違いがあることを理解できるようにする。</p> <p>・生活習慣 ・生活の様子 ・将来の夢 ・経験したこと</p> <p>皆が同じ習慣・同じ考え方・同じ感じ方にあること等が必要なのか問いかけることで，自他の違いを認め合い，互いを尊重することが大切であることに気付かせる。</p> <p>数人の生徒に発表を促し，学級生活をよりよくしていこうという意識をもち，それを行動に結びつけることが大切であることを確認する。</p>	
評 価	<p>一人ひとりの違いを理解し，互いを尊重しようとする気持ちや態度を養うことができたか。学級生活をよりよくしていこうという意識をもつことができたか。</p> <p>< 観察（グループ活動での発言や発表等）・ワークシート ></p>	